大学･高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学　一般枠、特例枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F140310110776	改組内容	研究科等の設置･増員（一般枠）
大学名	久留米工業大学	設置区分	私立	事業計画名	久留米工業大学大学院工学研究科（電子情報システム工学専攻）における収容定員の増員
学校種	大学	都道府県	福岡		

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	令和5年9月　工学研究科電子情報システム工学専攻（修士課程）収容定員に係る学則変更届出予定	令和5年9月　工学研究科電子情報システム工学専攻（修士課程）収容定員に係る学則変更届出	令和5年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①7月 選定後、速やかに工学研究科電子情報システム工学専攻の定員増（+5名）の届出を行う。 ②将来計画委員会の体制を強化する。また、教授3名･特任助教1名の公募を開始する。さらに、大学院でもPBLが継続できるように、PBL科目を整備し、外部社会人講師を選定する。 ③9月以降の入試で入学定員10名として入学者選抜を行う。 ④メタバース・ラボを用いた大学院生のためのシミュレーション教材の開発に着手する。 ⑤有償インターンシップ制度や新たなスカラーシップの導入について検討する。	①7月 選定後、9月に工学研究科電子情報システム工学専攻の定員増（+5名）の届出を行った。 ②将来計画委員会の体制を強化した。また、教授3名･特任助教1名の公募を開始した。さらに、大学院でもPBLが継続できるように、PBL科目を整備し、外部社会人講師を選定した。 ③9月以降の入試で入学定員10名として入学者選抜を行った。 ④メタバース・ラボを用いた大学院生のためのシミュレーション教材の開発に着手した。 ⑤有償インターンシップ制度や新たなスカラーシップの導入について検討した。		
令和6年度	令和6年4月　工学研究科電子情報システム工学専攻（修士課程）収容定員に係る学則変更届出予定	令和6年4月　工学研究科電子情報システム工学専攻（修士課程）収容定員に係る学則変更届出	令和6年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①入学定員10名として大学院生の入学を受入れ、専攻の収容定員15名の定員充足を達成する。また、速やかに電子情報システム工学専攻の入学定員を20名にて届出する。届出後、入学定員20名として入学者選抜を行う。 ②教授3名･特任助教1名を採用し、非常勤講師（実務家）による一部授業を開始する。 ③大学院生の利用する高度情報機器（高性能ノートPC）を整備する。また、異分野･異年齢PBLを実践し、研究発表会を開催する。さらに、メタバース・ラボを用いたシミュレーション教材を活用する。	①入学定員10名として大学院生の入学を受入れ、専攻の収容定員15名の定員充足に対して16名を達成した。また、速やかに電子情報システム工学専攻の入学定員を20名にて届出をおこない、届出後、入学定員20名として入学者選抜を行った。 ②特任助教1名を公募および選考については令和５年度に完了し、その結果、合格とし、令和6年4月より採用。また准教授1名を公募および選考の結果、合格とし、令和7年4月から採用。非常勤講師（実務家）による一部授業を開始する。 ③大学院生の利用する高度情報機器（高性能ノートPC）を整備した。また、異分野･異年齢PBLを2024年4月から実践し、2024年8月9日に研究発表会を開催した。さらに、メタバース・ラボを用いたシミュレーション教材を活用した。 令和５年度の取組状況⑤で報告した有償インターンシップ制度や新たなスカラーシップの導入については、その検討の結果として、令和６年度からコーオプ制度、特別奨学生【業績】の制度を開始した。		
令和7年度			令和7年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①入学定員20名として大学院生を受入れ、専攻の収容定員30名の定員充足を達成する。 ②教授3名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の継続、特任助教１名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の支援、非常勤講師（実務家教員）による講義を取り入れた授業を継続する。 ③新棟の電子情報システム工学専攻大学院生室、副専攻プログラムを実施するAI応用研究所の施設設備整備の設計・業者選定に着手する。その他、メタバース・ラボを用いた大学院生のためのシミュレーション教材の改善・新規教材を開発、異分野･異年齢PBLを実践・継続による研究発表、長期インターンシップに参加する学生の実績作りを並行して行う。 ④3月 電子情報システム工学専攻修了生10名を輩出し、修了生アンケートをとおして本取組を評価する。	①入学定員20名として大学院生を受入れ、専攻の収容定員30名に対して、24名が在籍した。 ②令和7年4月より准教授1名、6月より特別教授1名を採用し、研究指導および学部授業をスタートさせた。すでに採用している特任助教１名による大学院授業および学部授業は引き続き継続した。また非常勤講師（実務家教員）による講義を取り入れた授業を継続した。 ③新棟200号館3階の電子情報システム工学専攻大学院生室、副専攻プログラムを実施する同じく1階のAI応用研究所の施設設備整備の設計・業者選定に着手した。その他、メタバース・ラボを用いた大学院生のためのシミュレーション教材の改善も実施し新規教材を開発を進めた。加えて、異分野･異年齢PBLを実践、継続し研究発表会を令和8年3月18日におこない、長期インターンシップに参加する学生の実績作りにつながった。 ④3月 電子情報システム工学専攻修了生11名を輩出し、修了生アンケートをとおして本取組を評価した。		
令和8年度			令和8年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月　入学定員20名として大学院生が入学。専攻の収容定員は40名となり、定員充足を達成する。 ②教授3名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の継続、特任助教１名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の支援、非常勤講師（実務家教員）による講義を取り入れた授業を継続する。 ③令和7年度に引き続き副専攻プログラムを実施するAI応用研究所の施設設備整備の充実を図り、完了する。その他、メタバース・ラボを用いたシミュレーション教材を活用し、評価する。（R8.3.26承認） ④異分野･異年齢PBLを実践・継続し、研究発表会を開催する。また、長期インターンシップに参加する学生の実績を出す。 ⑤3月 電子情報システム工学専攻修了生20名を輩出する（目標達成）。修了生に対してアンケートを実施し、大学院機能強化について評価・検証する。			
令和9年度			令和9年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月入学定員20名として、大学院生が入学。専攻の収容定員40名の安定的充足を達成する。 ②教授3名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の継続、特任助教１名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の支援、非常勤講師（実務家教員）による講義を取り入れた授業を継続する。 ③４月大学院生の利用する高度情報機器（高性能ノートPC）を更新する。 ④メタバース・ラボを用いた大学院生のためのシミュレーション教材の改善および新規教材を開発し、更なる高度化を図る。 ⑤異分野･異年齢PBLを実践・継続し、研究発表会を開催する。また、長期インターンシップに参加する学生数を増やし、インターンシップ協力企業にアンケートを実施する。 ⑥3月電子情報システム工学専攻修了生20名を輩出する（安定した目標達成）。修了生に対してアンケートを実施し、大学院機能強化について評価する。			
令和10年度			令和10年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月入学定員20名として、大学院生が入学。専攻の収容定員40名の安定的充足を達成する。 ②教授3名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の継続、特任助教１名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の支援、非常勤講師（実務家教員）による講義を取り入れた授業を継続する。 ③メタバース・ラボを用いたシミュレーション教材を活用し、評価する。 ④異分野･異年齢PBLを実践・継続し、研究発表会を開催する。また、長期インターンシップに参加する学生数を増やす。インターンシップ協力企業にアンケートを実施し、インターンシップへの協力企業を増やす。 ⑤3月電子情報システム工学専攻修了生20名を輩出する（安定した目標達成）。修了生に対してアンケートを実施し、大学院機能強化について評価する。			
令和11年度			令和11年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月入学定員20名として、大学院生が入学。専攻の収容定員40名の安定的充足を達成する。 ②教授3名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の継続、特任助教１名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の支援、非常勤講師（実務家教員）による講義を取り入れた授業を継続する。 ③メタバース・ラボを用いた大学院生のためのシミュレーション教材の改善および新規教材を開発し、更なる高度化を図る。 ④異分野･異年齢PBLを実践・継続し、研究発表会を開催する。また、長期インターンシップに参加する学生数を増やす。インターンシップ協力企業にアンケートを実施する。インターンシップへの協力企業を増やし、充実した取組へと発展させる。 ⑤3月電子情報システム工学専攻修了生20名を輩出する（安定した目標達成）。修了生に対してアンケートを実施し、大学院機能強化について評価する。			
令和12年度			令和12年度自己評価	リストから選択してください。
	①4月入学定員20名として、大学院生が入学。専攻の収容定員40名の安定的充足を達成する。 ②教授3名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の継続、特任助教１名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の支援、非常勤講師（実務家教員）による講義を取り入れた授業を継続する。 ③大学院生の利用する高度情報機器（高性能ノートPC）を更新・整備する。 ④メタバース・ラボを用いたシミュレーション教材を活用し、評価する。異分野･異年齢PBLを実践・継続し、研究発表会を開催する。また、長期インターンシップに参加する学生数を増やす。インターンシップ協力企業にアンケートを実施する。インターンシップへの協力企業を増やし、充実した取組へと発展させる。 ⑤3月電子情報システム工学専攻修了生20名を輩出し、修了生アンケートをとおして本取組を評価する。			
令和13年度			令和13年度自己評価	リストから選択してください。
	①メタバース・ラボを用いた大学院生のためのシミュレーション教材を追加開発する。（新規開発は修了し、継続運用のみとする。） ②教授3名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の継続、特任助教１名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の支援、非常勤講師（実務家教員）による講義を取り入れた授業を継続する。 ③異分野･異年齢PBLを実践・継続し、研究発表会を開催する。また、長期インターンシップに参加する学生数やインターンシップへの協力企業を増やし、充実した取組へと発展させる。さらに、異分野･異年齢PBL、メタバースを用いた教育、長期インターンシップ制度等の教育成果について、教員が学会発表する。			
令和14年度			令和14年度自己評価	リストから選択してください。
	①専攻の収容定員40名の安定的充足を達成する。 ②教授3名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の継続、特任助教１名による修士論文の研究指導及び院・学部授業の支援、非常勤講師（実務家教員）による講義を取り入れた授業を継続する。 ③異分野･異年齢PBLを実践・継続し、研究発表会を開催する。さらに、長期インターンシップに参加する学生数やインターンシップへの協力企業を増やし、充実した取組へと発展させる。 ④異分野･異年齢PBL、メタバースを用いた教育、長期インターンシップ制度等の教育成果について、教員が学会発表する。 ⑤3月電子情報システム工学専攻修了生20名を輩出し、修了生アンケートをとおして本取組を評価する。			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	久留米工業大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ）「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

② 志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

④ 特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。

⑦ 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。

⑧ 教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）

⑨ 機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。

⑩ 計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）５名以上の入学定員の増員を行う計画であること。

⑪ 国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第５期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。

⑫ 教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。

⑬ 文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑫の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
すべての項目が要件を満たしている												

①～⑫の要件を満たしていない又は対象でない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑬,⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑬,⑭について	現在の状況
⑬文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。	認定を受けている
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

①　地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学は1966年の建学以来「人間味豊かな産業人の育成」を建学の精神、「知・情・意」の調和のとれた実践的教育を行うことを教育理念としており、研究・教育と地域社会貢献による「地域創生ものづくり人材育成」に注力してきた。令和3年度に開始した、企業・自治体と連携した地域課題解決型PBLは今年で3年目となり、課題解決に取り組む企業・自治体は倍増し、連携企業・自治体から直接、社会的ニーズや人材育成に関する意見を聴取する協力体制が既に整備できている。この地域課題解決型PBLを大学院教育でも継続し、異分野・異年齢グループでのPBLにより、AI・DS・DAに関する知識及び技能のみならず、デザイン思考による課題解決力を育成し、学修・研究に向かう力を涵養する。九州経済産業局、久留米ICT組合との事前協議は既に始めており、大学院生の経済的支援と地域企業のデジタル化・DX化・新事業創出の両立を可能とする「情報系大学院生による中長期・有償インターンシップ制度」について検討を進めている。	令和7年度の地域課題解決型PBLでは、地域企業・自治体から提供された実課題をもとに16テーマを設定し、学部学生56名、先輩学生22名、教員16名、地域企業・自治体の社会人37名の計131名が参加した。テーマ数、参加者数ともに前年度から増加し、地域企業・自治体との連携体制をさらに拡充することができた。先輩学生については、大学院副専攻プログラム「地域課題解決型高度AI教育プログラム」を履修した大学院生および、地域課題解決型AI教育プログラム（実践レベル・応用基礎レベル）修了生を選出し、各プロジェクトのリーダーとしてPBLを先導した。これにより、学部生と大学院生が協働する段階的・継続的なAI人材育成体制を構築した。令和7年8月8日に開催したPBL成果報告会には、九州経済産業局、久留米リサーチ・パーク、福岡県工業技術センターをはじめ、連携企業以外の企業・自治体・教育機関（高校・大学等）から100名以上が参加した。本学の地域課題解決型AI教育に対する関心は年々高まっており、産学官連携による教育・研究活動の発信の場として定着している。 　また、令和7年度も、大学院生がAIによる技術支援やシステム開発に従事することで経済的支援を受ける、本学独自の産学連携型教育システム「高度AIコーオプ実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を実施した。令和7年度は12名の学生が地域企業の実課題に直接関わりながら、高度なAI技術を実践的に学ぶとともに、地域企業のDX化・デジタル化支援に取り組んだ。令和8年3月18日にはコーオプ高度AIコーオプ実践の成果報告会を開催した。 　さらに、支援2事業の一環として整備した本学のメタバース・ラボでは、PBLやコーオプ連携企業・自治体16機関の研究室空間を構築しており、令和7年度も継続的に活用した。オンライン上での地域課題説明会やグループ討議、企業との打合せ、研究進捗共有等に活用することで、時間や場所の制約を超えた新たな産学連携教育研究環境を実現した。 　また、連合福岡主催の「地域活性化フォーラム in 北筑後『AIで拓く、北筑後の産業DXとWell-being』～医療・農業の町『久留米』から始まる社会実装のカタチ～」が本学で開催され、本学教員がコーディネーターを務めた。本フォーラムでは、中小企業のDX化・AI活用をテーマとして、本学学生が「地域課題解決型AI教育プログラム」における産学連携PBLの成果についてプレゼンテーションを行った。さらに、第2部では、福岡県中小企業DX推進センター専門アドバイザー、筑邦銀行副頭取、連合福岡副会長、久留米市役所商工観光労働部次長、久留米商工会議所事務局長らと学生によるトークセッションを実施し、筑後地域の活性化に向けたAI・DX活用の可能性について意見交換を行った。本フォーラムには多くの企業・自治体関係者が参加し、本学の地域課題解決型AI教育の取り組みを地域社会へ広く発信する機会となった。	

②　初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学は、地域の教育委員会と連携し、初等中等教育段階の児童生徒に向けたプログラミング教育、子供科学教室などを長年実践してきた。昨年度は、広川町教育委員会からの依頼でAIプログラミング教室を開催し、広川町３校の小学生17名、保護者13名が参加した。アンケートでは93%（30名中28名）の参加者が「楽しかった」と回答しており、97%（30名中29名）が「もう一度この教室があったら参加したい」と回答した。令和5年度もAIプログラミング教室を継続開催する。また、令和4年度には、福岡教育大学附属久留米小学校と「メタバースによる地域課題解決の総合的な学習」を実施した。今後、本学のオープンキャンパスなどでも、小中高の生徒が興味を持つであろう本学のメタバース・ラボを開放し、体験する機会を設け、先端情報技術に対する興味関心を涵養する。その他、久留米市立高校の「総合的な探究の時間」における地域課題解決の取組みを、本学大学院生が技術的に支援する等連携を深め、入学者確保に繋げる。	(状況:申請時の計画通りに進捗)令和5年度には広川町教育委員会と連携協定を結び、さらに連携を深めている。今後は、AIプログラミング教室だけでなく、AIを用いた広川町(子供)ウォークラリーアプリの開発、小学生対象「広川工業団地について知ろう」(教材ソフト)の開発を進めている。さらに本学は、令和6年度「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に佐賀大学の共同機関として採択され、今後は、久留米工大の女子学生「リケキャリ・アンバサダー」が中心となり、久留米や佐賀の女子中学生・高校生に対し、理系の楽しさや久留米工大の魅力を伝えていく取組もスタートさせている。また、本学が連携校として申請をした2校が文部科学省のDXハイスクール事業に採択されたことを受け、令和6年度からは教育DXコンソーシアムを立ち上げ、DXハイスクール採択高校の生徒へのAI・データサイエンス・情報関係の授業支援や高校教員への教育支援を行い、連携を深めている。 また、支援2の事業としてメタバース・ラボの機能充実を図っており、九州初のメタバースオープンキャンパスの開催を実現することができた。このような活動を通して、初等中等教育との連携を図っている。	

③　女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
令和5年度「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」に採択された伊万里実業高校の取組では、本学が高等教育機関としてコンソーシアムに参画しており、メタバース・ラボを用いた高大接続授業を展開し、実業系高校からの女子入学者確保を目指している。今後、商業・実業系高校との高大接続授業や、科目等履修による単位認定制度、入試における優遇制度を検討し、まずは学部段階で優秀な女子学生を増やし、女子大学院生の確保に繋げる計画である。遠隔会議システムやオンライン動画、メタバース・ラボの有効活用により、在宅履修で大学院の単位を取得できる仕組みや長期履修制度など、社会人や留学生等が大学院に進学しやすい学修制度を、現在、検討している。そして、異年齢・異分野で取り組む地域課題解決型PBLを核とした、高校から大学院までの「9年一貫高度情報専門人材育成プログラム」により、多様な学生を確保し、中長期インターンシップにより地域DX化に貢献する計画である。	(状況:申請時の計画通りに進捗)　令和7年度は、メタバース・ラボやオンラインシステムを活用した高大接続教育を継続的に実施し、女子生徒を含む多様な高校生に対してAI・情報分野への興味・関心を高める取り組みを進めた。例えば「新時代に対応した高等学校改革推進事業（創造的教育方法実践プログラム）」に採択された伊万里実業高校との連携では、本学において「万願寺トウガラシ自動収穫ロボット」の紹介や、ロボットアームを用いたAIプログラミング体験等の実践的な講義・演習を実施した。 　また、令和6年度より、在宅履修や長期履修制度を整備し、社会人学生や留学生等が大学院へ進学しやすい学修環境を構築した。これにより、令和8年度には他大学農学部を卒業した社会人女性1名が本学大学院へ進学する実績につながった。 　さらに、令和6年度より開始した本学独自の産学連携型教育システム「高度AIコーオプ実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、大学院生が地域企業のDX化支援やAIシステム開発に有償で取り組む教育を実施した。令和7年度は12名の学生が参加し、地域企業の実課題に取り組みながら高度なAI技術を実践的に学んだ。 　加えて、令和7年度の地域課題解決型PBLでは、16テーマに学部学生56名、先輩学生22名、教員16名、地域企業・自治体の社会人37名の計131名が参加した。メタバース・ラボに構築したPBL連携企業・自治体16機関の研究室空間も継続的に活用し、時間や場所の制約を超えた学修環境を整備した。 　これらの取り組みにより、高校から大学院までを接続した実践的AI教育体制を構築するとともに、女子学生、社会人学生、留学生等を含む多様な学生が学びやすい教育・研究環境の充実を進めた。	

④　他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学はMDASH＋選定校として、地域高等教育機関に向けたAI・DS教育を支援している。八女筑後看護専門学校の「情報・AIリテラシー」では、AIプログラミングや医療現場でのAI活用に関するオムニバス講義を提供している。また、聖マリア学院大学の「データリテラシー演習」では、令和5年度からAIプログラミングを担当しており、令和6年度からは看護学生とともに、異分野連携で健康・医療・well-being等の課題解決に取組む予定である。今後、大学院「地域課題解決型高度AI教育プログラム」のPBLにおいても、大学・短大・専門学校との連携を強化し、他大学等の学生が本学大学院生とともに地域課題解決に異分野・異年齢で取組む教育体制を構築する。海外大学との連携としては、令和3年度からZoomを用いて実施しているセントラルワシントン大学（海外協定校）とのバーチャル留学（AIエンジニアコース）に、より専門性の高い大学院生クラスを設けるとともに、メタバース・ラボを導入した新たな環境での、研究交流の活性化を図る。	(状況:申請時の計画通りに進捗)　本学はMDASH＋選定校として、地域高等教育機関に向けたAI・データサイエンス教育支援を継続的に実施した。令和7年度は、八女筑後看護専門学校の「情報・AIリテラシー」において、AIプログラミングや医療現場でのAI活用に関するオムニバス講義を本学教員が担当した。また、聖マリア学院大学の「情報・AIリテラシー」において、本学教員がAIプログラミングや医療分野でのAI活用に関する集中講義を担当した。さらに、「データリテラシー演習」では、医療分野でのAI応用として、聖マリア学院大学の学生が本学学生とともに地域課題解決型PBLに参加し、異分野・異年齢協働による実践的AI教育を推進した。 　令和7年度の地域課題解決型PBLでは、学部学生56名、先輩学生22名、教員16名、地域企業・自治体の社会人37名の計131名が参加した。大学院副専攻プログラム「地域課題解決型高度AI教育プログラム」を履修した大学院生や、地域課題解決型AI教育プログラム修了生が各プロジェクトのリーダーを務め、大学・専門学校・地域企業・自治体が連携した教育体制を継続的に運用した。 　海外大学との連携としては、（CWU：海外協定校）とのバーチャル留学（AIエンジニアコース）を実施した。令和7年度は、メタバース・ラボやZoomを活用した語学研修・研究交流を継続し、3名の学生がCWU主催シンポジウム「SOURCE」において研究成果を英語で口頭発表した。 　また、本学の地域課題解決型AI教育の取り組みについては、日本工学教育協会「工学教育研究講演会」における依頼講演「産学連携PBLを核とした地域課題解決型AI教育プログラムの実践」や、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム第1回中国ブロックワークショップにおける招待講演「PBLに注力したAI教育プログラム―地域課題解決型PBLから大学院コーオプ教育への展開―」において紹介を行った。これにより、本学の高校から大学院までを接続した「9年一貫高度情報専門人材育成プログラム」を他大学・高等教育機関へ広く発信した。 　以上の取り組みにより、国内外の大学・専門学校・地域企業・自治体と連携した、実践的かつ国際的なAI・データサイエンス教育体制を継続的に発展させることができた。	

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	久留米工業大学

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

年度	区分	指摘事項等	対応状況
令和6年度	実施状況報告書留意事項	○当初に計画していた教員確保に遅れが生じている。今後の事業計画に支障がないように、事業の着実な実施に努めること。	教員確保について令和6年度においては令和6年4月より特任助教1名を採用した。令和5年度から令和6年度にかけても継続して公募をおこない、随時教員選考を行った結果、令和7年4月から准教授1名を採用するに至り、令和7年6月に特別教授1名を採用することができ、教員確保が進んだ。 令和6年度中での教員確保が遅れたことによる本事業の実施に影響はない。 令和6年度の入学定員10名に対して、11名の入学者を確保することができた。 特色である【地域課題解決型高度AI教育プログラム】においては、本専攻の教員と民間企業からの非常勤講師等を活用することで大学院教育を展開している。 地域企業の課題をAIを活用して解決を図る有償インターンシップ【高度AIコーオプ実践】をスタートさせ、令和6年度は4名の大学院生が受講し、実際に企業が抱えている課題の解決に取り組んだ。 結果、産業界のニーズを踏まえた高度情報専門人材の育成が進んでいる。

大学名	久留米工業大学	改組内容	研究科等の設置・増員（一般枠）

本事業対象となる研究科等の個数	1

1.本事業対象となる情報系組織の状況

1－2.修士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	工学研究科電子情報システム工学専攻

		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定・届出	増員	増員	完成年度															
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	5	10	20	20	20	20	20	20	20	20									
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	5	10	20	20															
		入学者数	人	5	11	13	21															
		女子学生数	人	0	1	0	2															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	5	10	20	20	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	5	11	13	21	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	0	1	0	2	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.00	1.10	0.65	1.05			-	-			-	-	-			-	-		
	収容定員等	収容定員(C)	人	10	15	30	40															
		在籍者数(D)	人	10	16	24	34															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.00	1.07	0.80	0.85			-	-			-	-	-			-	-		
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	5	5	11	-			-	-			-	-	-			-	-		
		就職者数	人	4	5	11																
		進学者数	人	1	0	0																
		その他	人	0	0	0																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	7	5	6	4															
		授業科目の単位数	単位	16	12	16	14															

大学名	久留米工業大学	改組内容	研究科等の設置･増員（一般枠）

2.情報系組織の状況

2－1.博士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	-	-	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	-	-	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	-	-	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	-	-	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	-	-			-	-				-				-			
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-	-	-															
		在籍者数(D)	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	-	-			-	-				-				-			
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	-	-	-	-															
		就職者数	人	-	-	-	-															
		進学者数	人	-	-	-	-															
		その他	人	-	-	-	-															
		進路不明	人	-	-	-	-															
	大学院博士課程	満期退学者数	人	-	-	-	-															
		学位取得者数	人	-	-	-	-															
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-	-	-															
		授業科目の単位数	単位	-	-	-	-															

大学名	久留米工業大学	改組内容	研究科等の設置･増員（一般枠）

2.情報系組織の状況

2－2.修士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	5	10	20	20															
		入学者数	人	5	11	13	21															
		女子学生数	人	0	1	0	2															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	5	10	20	20	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	5	11	13	21	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	0	1	0	2	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.00	1.10	0.65	1.05			-	-		-		-				-	-		
	収容定員等	収容定員(C)	人	10	15	30	40															
		在籍者数(D)	人	10	16	24	34															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.00	1.07	0.80	0.85															
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	5	5	11																
		就職者数	人	4	5	11																
		進学者数	人	1	0	0																
		その他	人	0	0	0																
		進路不明	人	0	0	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	7	5	6	4															
		授業科目の単位数	単位	16	12	16	14															

大学名	久留米工業大学	改組内容	研究科等の設置･増員（一般枠）

2.情報系組織の状況

2－3.学士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	90	90	90	110															
		入学者数	人	91	83	80	102															
		女子学生数	人	12	4	15	7															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	0	1															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
		女子学生数	人	-	-	-	-															
		社会人学生数	人	-	-	-	-															
		留学生数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	90	90	90	110	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	91	83	80	102	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	12	4	15	7	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	0	0	0	1	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.01	0.92	0.89	0.93			-	-		-		-				-			
	収容定員等	収容定員(C)	人	338	348	358	388															
		編入学定員	人	4	4	4	4															
		在籍者数(D)	人	397	384	362	363															
		編入学者数	人	6	13	7	4															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.17	1.10	1.01	0.94			-	-		-		-				-			
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	91	91	93																
		就職者数	人	70	71	67																
		進学者数	人	12	11	21																
		その他	人	9	8	5																
		進路不明	人	0	1	0																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	8	7	10	7															
		授業科目の単位数	単位	79	77	72	55															

大学名	久留米工業大学	改組内容	研究科等の設置･増員（一般枠）

3.大学全体の状況

3－1.博士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員（A）	人	-	-	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	-	-	-	-	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-	-	-			-	-				-	-			-	-		
	収容定員等	収容定員（C）	人	-	-	-	-															
		在籍者数（D）	人	-	-	-	-															
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-	-	-			-	-				-	-			-	-		

3.大学全体の状況

3－2.修士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	15	20	30	30															
		入学者数	人	17	24	19	27															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員（A）	人	15	20	30	30	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	17	24	19	27	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.13	1.20	0.63	0.90			-	-				-	-			-	-		
	収容定員等	収容定員（C）	人	30	35	50	60															
		在籍者数（D）	人	25	41	42	46															
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.83	1.17	0.84	0.77			-	-				-	-			-	-		

大学名	久留米工業大学	改組内容	研究科等の設置･増員（一般枠）

3.大学全体の状況

3－3.学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	320	320	320	340															
		入学者数	人	324	283	262	334															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員（A）	人	320	320	320	340	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	324	283	262	334	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.01	0.88	0.82	0.98			-	-			-	-	-			-	-		
	収容定員等	収容定員（C）	人	1,320	1,320	1,320	1,340															
		編入学定員	人	20	20	20	20															
		在籍者数（D）	人	1,377	1,283	1,204	1,187															
		編入学者数	人	9	14	8	5															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.04	0.97	0.91	0.89															

4.外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
項目	単位																			
外部資金獲得額	千円	91,246	83,372	96,818																

特記事項